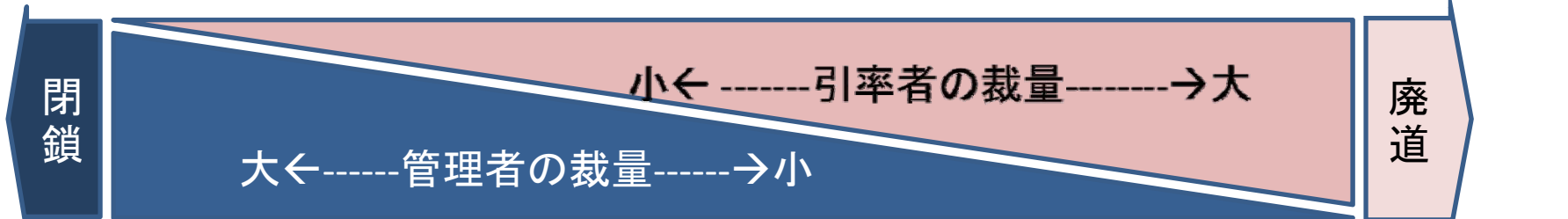


引率者検討部会で議論したいこと(1)

091214五湖利用のあり方協議会 参考資料1
(091115引率者検討部会 配布資料)



引率者ではなく不特定多数の利用者と同義

↓
新システムのメリットが出ない

管理者のない所を自由利用という状態

↓
現実には不可能 (植生保護期もある)

バランスをどこで取るか？

	(1)	(2)	(3)	(4)
基本ルール	ヒグマとの遭遇を回避することが基本。 回避行動を行っていて、それでも遭遇してしまったら・・・			
	・遭遇したら引き返す	・リスクを管理者が判断して進む	・リスクを引率者が判断して進む	・遭遇しても進む
引率者レベル	リスクの低い遭遇とは何か？			
	・遭遇しない対処 ・遭遇後の一次対応	・遭遇しない対処 ・遭遇後の一次対応 ・本部への情報提供	・遭遇しない対処 ・遭遇後の一次対応 ・リスクの低い遭遇を判断できる	・遭遇しない対処 ・遭遇後の一次対応 ・どんな危険な遭遇にも対処できる
研修内容				

どこに線をひく？

- ・遊歩道上に滞留
- ⋮
- ・進行方向で遊歩道上を通過。見えなくなった
- ⋮
- ・進行方向以外。〇〇m以上遠方。
- ⋮

↑
実験はここレベル想定して実施

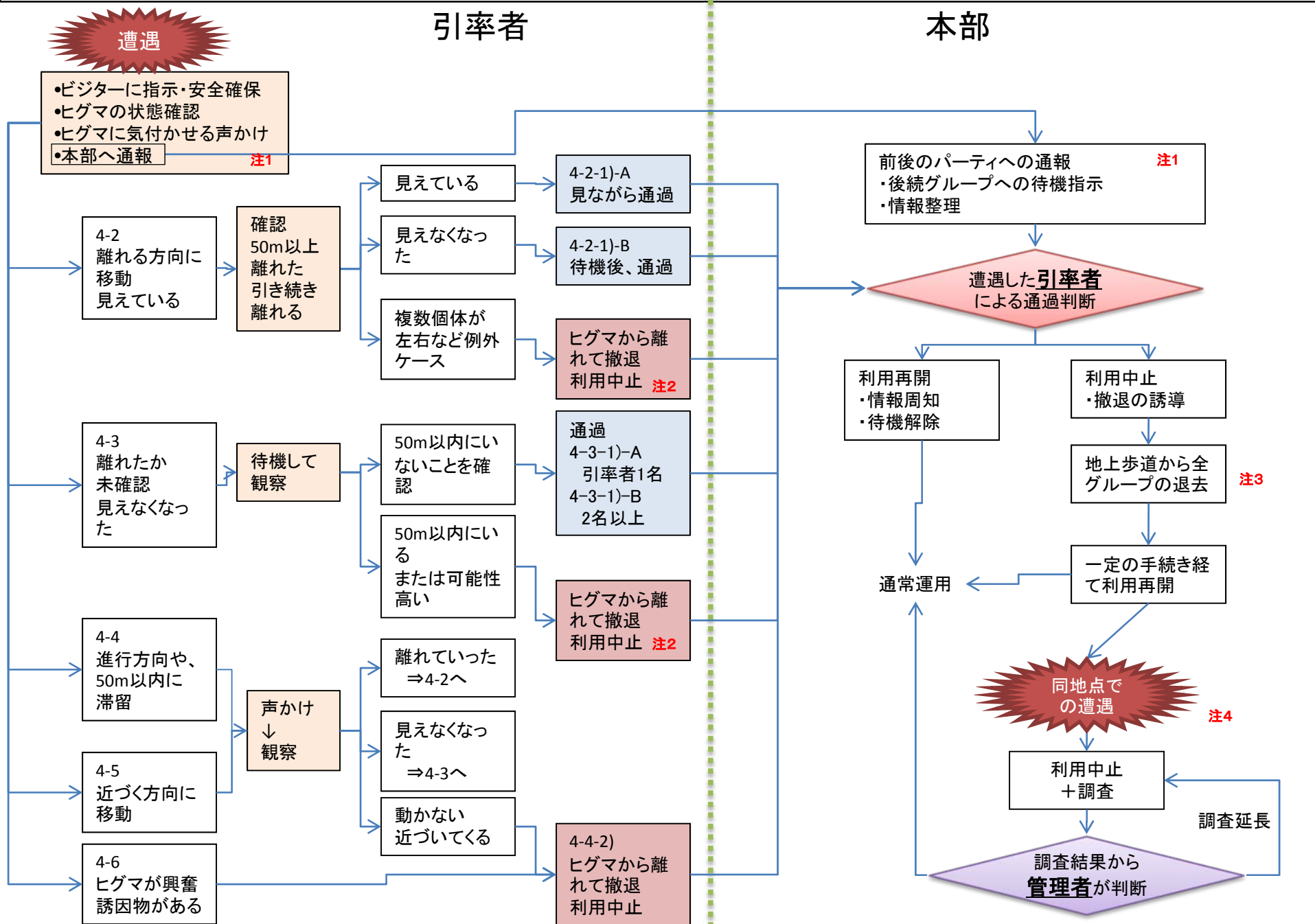
実験から分かったこと
・判断は本部より現場で行うのが实际的

協議会の意見として
・引率者は「ガイド」経験者には限定しない

検討会で議論したいこと

- 1) 「リスクの低い遭遇」は、どういったケースか
- 2) 「リスクの低い遭遇」を判断できるようになる「研修」とは？
- 3) 引き返しの後、どのように再開するか

ヒグマ遭遇後の対応フロー(A案): 実験案の改訂



実験からのフィードバック

基本的な責任範囲の考え方

- 引率者は、引率グループの安全について責任を負う
- 管理者は、遭遇グループ以外に2次的な危険が及ばないよう対応を行う

ヒグマ対処の基本方針

- 利用確保のための積極的な追い払いはしない。遭遇時の危機回避のための追い払いは行う。
- ヒグマに対する人間の行動を統一することにより、長期的に安全性が高まることを目指す。
- ヒグマに遭遇しないことが、遊歩道の利用機会を最大化できる。 → **予防処置が重要**

実験時のフローからの変更ポイント

- 注1: 引率者の初動は、グループの危機回避のために集中する連絡は本部へのみ行き、他グループへの連絡は本部の作業に移行
- 注2: 実験ルールでは、待機して、ヒグマ対策スタッフの応援を待つ、という対応があったが、待機時間が不確定であり实际的でない。現場で判断できない場合は、一度利用中止とする
- 注3: 最初の利用中止から、利用再開までは、「自動化」するなど手続きを明確化することで、その後の予約者への情報提供を可能とする。
- 注4: 利用中止→再開後に同一エリアで目撃が続いた場合は、なんらかの理由により、ヒグマが定着している危険性があるとして、調査に入る。

「引き返し」→「利用再開」

	ヒグマ対策員が現場を確認する体制	引率者の情報により、利用中止・再開を決定する
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門的で定常的な視点での確認ができる ・管理者としての立場が明確 	<ul style="list-style-type: none"> ・遭遇状況を最も正確に把握できる。 ・対応の時間差が少ない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・現場確認に行くのに、最大1時間後。その間、待機が続き、状況も変化する。 ・確認作業の間、別の遭遇に対応する別の対策員が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場として、判断がぶれる可能性 ・引率者ごとの判断のばらつきが出る可能性 ・判断を共有する仕組み・研修が必要
想定される体制における課題	<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数のヒグマ対策スタッフが常駐する体制が取れるか 	<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な判断基準と、引率者全員での共有をどう作るか

ヒグマ遭遇後の対応フロー(B案)

引率者

本部

遭遇

- ビジターに指示・安全確保
- ヒグマの状態確認
- ヒグマに気付かせる声かけ
- 本部へ通報

遭遇回避の対応をされていて遭遇した
↓
リスクが上がった状態
↓
基本的には、引き返す。

【例外ケース:】
・第五湖や第四湖の対岸にクマを目視など、明確にリスクがない遭遇であると定義できるケース
→ 運用しながら、定義していく。

【課題】

- ・例外ケースについては判断基準がある
- ・滞留していない、誘因物がない、離れて行ったなどの要素を確認する方法が明確ではない。
- ・ガイドという「商売」の性格として、判断がぶれないか？
- ・ヒグマに対して、一貫したメッセージを保てるか

- 前後のパーティへの通報 **注1**
- ・後続グループへの待機指示
- ・情報整理

遭遇した引率者による通過判断

- 利用再開
- ・情報周知
- ・待機解除

- 利用中止
- ・撤退の誘導

地上歩道から全グループの退去 **注3**

一定の手続きを経て利用再開

通常運用

同地点での遭遇 **注4**

利用中止 + 調査

調査延長

調査結果から管理者が判断

通常運用

ヒグマ遭遇後の対応フロー(C案)

